

# 『日本初のホテル誕生』

## 錦絵に見る江戸湊、開国の賑わい



東京築地鉄砲洲景（部分） 歌川国輝（二代）画 版元 大黒屋金次郎 大判錦絵6枚続

### 築地ホテル館

東京みなと館が所蔵する浮世絵の中から150年前の東京港を偲ばせる作品を紹介します。作品は二代歌川国輝画『東京築地鉄砲洲景』で、日本初のホテルとして名高い築地ホテル館を中心に江戸湊として異国情緒あふれる賑わいを描いたものです。

1858年（安政5年）に締結された日米修好通商条約により、日本に外国人の居留を認め、自由貿易を行うなど本格的に開国に踏み出す要因となりました。10年後には約260年続いた徳川幕府が崩壊、明治政府が発足し、江戸湊を除いて下田、箱館に続いて横浜、長崎、新潟、神戸の港を外国貿易港として開港しました。

### 開市

開港しなかった江戸湊の築地鉄砲洲一帯は外国貿易市場として1869年11月に開市、外国人専用のホテル兼貿易所が建設され、外国人居留地に外国公使館や教会、学校が作られました。

江戸湊沖合の黒船を背景に堂々と描かれた西洋館は日本初の本格的ホテル「築地ホテル館」（木造3階建）です。現在の勝鬃橋北詰に建設されました。基本設計は新橋、横浜駅舎や横浜税関等多くの建築物を設計した米国人技師リチャードPブリジェンス。ベランダや鎧戸のある西洋風のつくりで、施工は清水組（現在の清水建設株）の二代喜助がおこない、瓦屋根になまこ壁といった和洋折衷建築となりました。外国人からはエドホテルと呼ばれ、多くの見物人が訪れる名所となり、錦絵がたくさん描かれました。



波止場の賑わい

しかし1872年の銀座大火によりわずか4年足らずで焼失し、幻のホテルとなりました。

ホテルの前には各国の領事館が建ち、人と物資の往来が活発に行われている様子がみられます。この辺りは「相対貸し」の区域（外国人と日本人が雑居出来た場所）で、馬車や馬に乗った民族衣装をまとった異人や赤い風船を持った異人に加えて多くの日本人も訪れている様子が描かれています。また、手前の波止場では、俵ものの荷役をする傍らに波止場見張の役人が出入りを監視している様子も見られます。

東京港が国際貿易港として開港するのは、開国から遅れること約70年後の昭和16年（1941年）、2011年に70周年を迎えることとなります。